



～2012年、印象に残ったこと～



印藤 晴子

2012年は日本の良さをしみじみと感じた年になりました。Made in Japanは未だに海外で高い評価を得ていたし、日本人の技術力や人との接し方はやはり素晴らしいと実感しました。日本がどれだけホスピタリティの高い国かも感じましたね。「おもてなしの心」は日本独特のもの。大切に受け継いでいきたいと思ったのでした。



2012年といえば、東京スカイツリーです。建設中に放送された特集番組を見ていて、設計士や建設現場の職人さんたちの働く姿に感動しました。決して表舞台には出ないのに、コンマ単位のズレも許さないプロ意識に、思わず「カッコイイ!」と。自分と重ね合わせて、自分もカッコイイ裏方を目指そうと思ったりしたのです、ハイ。



坂井 美穂

人生初のディズニーランド体験です。まずは待ち時間の長さ。ディズニーランドの凄さを痛感。3時間なんて、福岡じゃ絶対待ちませんから(苦笑)。パレードもアトラクションも素晴らしいのですが、一番印象に残ったのは、お姫様の衣装をして、なりきって食事をしていただいていたお客の存在。「ここは夢を見る空間なんだなあ」とディズニーランドの偉大さを知ったのでした。



重富 幸治郎

やっぱりロンドンオリンピックです…が、私はその後開催されるパラリンピックを観るのも好きなんです。特に今年はすごく華やかな感じで良かったです。きっと定着したんですね。視覚障害者の球技は、鈴の入ったボールの音を頼りにプレイするのですが、流れるような試合運びに「努力の賜物!」と感動しました。自分も頑張ろうという気持ちにさせてもらいました。



古賀 ちはる

なんといってもORTIC入社! …ですが、プライベートでは体力をつけるため、ボクシングジムに通いはじめました。そこで突極のストイック体験をし、あしたのジョーになりかけました(笑)。印象に残っているのは、ジムの会長さんがいつも優しくしたこと。聞けば、元タイトル保持者だとか。「強い人ほど、思いやりと優しさがあるんだな」と実感しました。



重松 順子

古賀 ちはるの旬なハナシ

古賀です。今月から“食と健康”をテーマに、旬の食材の効能や体に良い食べ方をご紹介していきたいと思っております。少しでも皆様のお役に立てたら嬉しいです。では、12月は私の好きな生姜について。

生姜の辛み成分は血行を促し、新陳代謝を高め、体を温めます。さらに強い殺菌力もあり

ます。また香り成分には疲労回復、食欲増進、解毒、消炎作用があります。寒い時期にはぜひお薦めしたい食材です。

ちなみに私は調子の悪い時、皮付きの生姜をうすくスライスして、もろみを付けて生のまま食べます。ピリッしますが、すぐに体がポカポカし始めます。一度お試しください。(古賀)



私たちは、皆さまを新たな発展と飛躍へ導く“翼”となります。

2012年12月号

## 答えを出す前に…まずは理屈抜きで動く。

早いもので2012年も終わりを告げようとしています。今年は行動範囲をASEANまで広げ、駆け抜けた一年でした。

最初は深夜便での移動にぐったりしていましたが、最近ではそのまま出社しても大丈夫になってきました。体が慣れてくるんですね。

アジアも内需として捉える感覚も生まれた一方で、それぞれの国の個性も少しずつわかりはじめました。

取引先がこちらに望むことの背景を知るために、まずは理屈抜きで現地へ行ってみることもありました。街の空気、人々の様子、小売店で売られている物…それらを知るだけでもヒントになります。できる限り柔軟な発想で「どうすれば先方の要望に応えられるか?」など、ネット社会と呼ばれる今でも現地でしかわからないことがあると実感しました。

もちろん課題もたくさんあって、現地で痛感するのはやはり言葉。「言葉が通じれば、もっと的確な提案ができるのに…」と。開発秘話や、なぜこの国にこの商品を提案したいのか、を自分の言葉で伝える。…それが来年の目標の一つになります。



シンガポールの街並み

株式会社ORTIC  
代表取締役

印藤 晴子





# エラスチン配合 & コラーゲン「シルキスタ」も ハイクオリティ認証製品に!

『秘伝 梅肉黒酢』と『秘伝 梅肉黒酢ラクリア』がハイクオリティ認証を取得して4カ月。その効果は着実に始まっています。この度『エラスチン配合&コラーゲンシルキスタ』も認証を受けましたので皆様にご報告します。

## 世界が認める、 ハイクオリティ認証

健康食品に関する世界標準のデータベース「ナチュラルメディシン・データベース (NMDB)」はアメリカに拠点を置き、世界数十か国の厚生行政に公式採用されています。日本では国立健康栄養研究所のデータベースに多く引用されています。ハイクオリティ認証製品になると、日本医師会と日本薬剤師会が推薦する「NMDB日本対応版」の成分別製品リストに載るほか、約17万人の医師会会員が無料検索できる日本医師会専用データベースにも記載されます。

こうした世界的に保証される認証を取得することは、製品の安全性に敏感に反応する消費者に“信頼できる高品質商品”であることをアピールできるほか、輸出を考える際には大きな付加価値となります。パッケージに表示されるハイクオリティ認証マークは、今後ますます注目を集めることとなるでしょう。

## ハイクオリティ認証製品『シルキスタ』は…

ORTICが手掛けたハイクオリティ認証の3商品目となる『エラスチン配合&コラーゲンシルキスタ』は、たるみやシワを予防し、お肌にハリと潤いをもたらす、美肌訴求の健康食品。ヒトと組成が近い豚由来のエラスチンとコラーゲンを、ヒトの真皮層に存在する1:50の比率で配合しているため、より高い体感性が期待できます。さらに肌老化の一因である糖化を抑制する「えんめい薬(紫菊花)」のほか、ヒアルロン酸、セラミド、L-シスチンを配合。昨年11月の発売から着実に売上げを伸ばしている商品です。



## ハイクオリティ認証の 今後の展開

日本でハイクオリティ認証の審査を行なっているのは、一般社団法人日本健康食品・サプリメント情報センターです。正式に活動を始めたのは2年ほど前のため、まだ日本で認証を受けた商品は多くありません。ハイクオリティ認証の審査は大変厳しく、成分分析からパッケージの表記までこまかくチェックされます。『シルキスタ』は新商品であったため、入念な賞味期限テストの結果を出すまでに4カ月を要しました。しかし、その審査基準が高い安全性を支えているのです。

日本健康食品・サプリメント情報センターは今後、ハイクオリティ認証の啓蒙活動を広げるとともに、正しい申請方法を教えるセミナーを年6回開き、その受講者でなければ申請できないシステムをとる予定です。ORTICはすでにセミナー受講を終え「エキスパート」の称号を得ていますから、今後も認証申請ができます。OEM商品の場合もご相談を承ります。どうぞお気軽にお問合せください。



それ、ウソです

丸山寛之

第61回

## 昔の名前で……!?

禾本科植物の花粉による《乾草の風邪》はフランスでは五月に特に多いが、一方ブタクサの類や菊科の花粉による《秋の風邪》は米国で九月に見られる。(エミール・デュオ著『気候と人間』奥田穰 岡本雅典 神山恵三共訳=白水社・文庫クセジュ)

一読、えッ、それって花粉症のことじゃないの? と思った人が多いだろう。そう、そのとおりだけど、この本の発行は1955年8月5日。当時の日本には「花粉症」という名の病気はなかった。

♪京都にいたるときゃ 忍と呼ばれたの…ではないが、《乾草の風邪》も《秋の風邪》も花粉症の“昔の名前”である。「<sup>かほんか</sup>禾本科」も古い用語で、今は「イネ(稲)科」と呼ばれている。

乾草や秋の「風邪」もおかしい(たぶん誤訳?)。正しくは「<sup>かそくせつ</sup>枯草熱」で、英国の医師ジョン・プロストックが最初に報告した病気である。スコットランドの牧草地帯の村医者だった彼の診療所には、毎年、初夏のころになると、体が熱っぽく、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、涙目などを訴える患者がやってきた。患者はみな農夫だった。

プロストックは、そうした症状が干し草への接触によって発症することに気づいた。そして9年間かけて集めた28の症例を「Hay fever (枯草熱)」と名づけて発表した。1819年のことである。

その後、同様の症状は、花粉やカビ類を吸入しても起こり、干し草に接触して起こる症状も、原因は干し草に繁殖したカビであり、アレルギー性疾患の一種であることがわかった。

ある物質に対する人間の体の異常な過敏反応を、ギリシャ語の「アロス(allos=変わった)」と「エルゴ(ergon=作用)」をくっつけて、「アレルギー(allergia)」と命名したのは、オーストリアの小児科医クレメンス・V・ピルケ。1906年である。

### 丸山寛之プロフィール

医療ジャーナリスト。NPO法人日本医学ジャーナリスト協会会員。1932年、鹿児島生まれ。新聞記者、医学雑誌編集者を経て医療ライター。1960年代初めから面接取材した医師・医学者は優に1000名を超える。著書=「がんはいい病気」(マキノ出版)「読むサプリ」(明拓出版)「この酔狂な医者たち」(草思社)「ビジネスマン元気術」(日本マンパワー出版)など。雑誌「壮快」に「名医が聞く」連載中。Webサイトに「健康1日1話」<http://www.maru-san.info/> を開設。毎日更新している。



一方、こちら日本で初めて花粉症が見つかったのは1961年、東大・物療内科の荒木英斉医師によるブタクサ花粉症で、ついで64年、東京医科歯科大・耳鼻咽喉科の斎藤洋三医師がスギ花粉症を報告した。

しかし当時の患者数はまだ微々たるものだった。だから1955年発行の『広辞苑』第一版に「花粉症」の項目がないのは当然だが、69年発行の第二版にも76年の同補訂版にも、ない。「枯草熱」も第一版にはなく、第二版から載っている。

花粉症患者がいきなりどっとふえて社会問題になったのは、70年代末から80年代初めだった。で、83年発行の第三版ようやく「花粉症」がデビューした。

いまや国民の30%、4000万人が花粉症に悩まされ、その7割をスギ花粉症が占める。これは日本だけではない。プロストックは28症例を集めるのに9年かかったが、いま英国の枯草熱(アレルギー性鼻炎)の患者は人口の24%だという。

ところで、このごろ、くしゃみ、鼻水、よく出るのは、朝晩の冷えのせい? いや、もしかしたら、それ、秋の花粉症かもしれない。

秋の花粉症の原因は、たいていブタクサやヨモギだが、季節はずれのスギ花粉症もあり得る。猛暑の夏のはじめ、10月から11月にかけて杉の木の花が一部開花する「狂い咲き」があるからだ。

「敏感な人は秋のうちからスギ花粉症を警戒したほうが良い」と耳鼻科医は呼びかけている。

